

おじゃまします！

文責：徳永哲郎（地域学校コーディネーター）

2020. 1. 25 No.18

中学校合同リーダー研修会（1/18）

市内3中学校の生徒会役員がSANKO夢みなとタワーに集まり、今後の生徒会活動について意見を交換しました。

テーマ①は「わが校の課題点とよい所」。一中生はよさとして「先輩・後輩の関係」「行事の一体感」等、課題として「消極的」「ルールやマナー」等を挙げました。「あいさつ」は両方に。

テーマ②は「私たちのコミュニティ・スクール」。CSの考えや一中校区の実践についての筆者の話を聞いた後、中学生に何ができるかを考えました。一中は「釣り大会」を提案しました。

今まさに日本中の学校がめざしている「主体的・対話的で深い学び」。普段「地域」をあまり意識していないせいか、難しかったようですが、非常に前向きに取り組む姿が印象的でした。



テーマ①を発表する一中生



テーマ②「うーん…」

生徒の感想から

- ◆最初は「難しそうだな」と思っていたけど、いろいろな意見が出て楽しかった。一中の釣りで交流を深めるのもいいと思った。（二中生）
- ◆まずは自分たちから一步をふみ出して、地域と学校で大きな学校をつくりたい。（一中生）

上道小学校の始業式（1/8）

金森校長が「オリンピックもパラリンピックも多くのボランティアに支えられています。上道小も多くの方々にお世話になっています。感謝する気持ちを忘れずに3学期を過ごしましょう」と話されました。

「今年の抱負が言える6年生はいませんか？」の呼び掛けには、さっと一人の手が。

「言われてするのはではなく、進んで行動したいと思って手を挙げました」彼女。4月からは頼もしい中学生ですね！



「みんな知っているね！」

境小“友だちお迎え隊”（1/8）

4人の転入生を迎えた境小では、始業式の後、早速遊びに誘ったり、校内を案内したりする子どもたちの姿が見られました。筆者も小学校の転校を経験しましたが、その時に親切にされた経験が今の人生の土台となり、その土地は私にとって「心のふるさと」です。

相手の不安な表情が笑顔に変われば自分も笑顔に。子どもは仲間づくりが本当に上手です（大人も学びたい！）子どもの存在は温かいまちづくりに欠かせません。



「ここが放送室だよ！」

園児も地域の「宝物」(1/16)

◆境小・柘植・聖心・美哉交流会

入学を控えた3園の年長さんが境小に大集合。これは、1年生が生活科の学習の一環として招いたもので伝統的遊びや平仮名の学習等で交流を深めました。中には、1年生に絵本の読み聞かせをする園児もいて感心しました。



①あがりみち保「ボール投げ教室」

市の事業として毎年行われている行事です。「上道チャイルド」監督で一中CS会長の岩本和貴さんの指導で、年長児たちは心も体もリラックス、思い切り体を動かしていました。いつでもどこでも子どもたちの手本は大人です。



ね

子年と境港の意外なつながり

かのえね

今年は「庚子」。「漢書」によれば、「子」は新しい生命が種子の中に萌（きざ）し始める状態とか。また子孫繁栄、新たな挑戦等を意味する年でもあります。

さて高校球児の聖地、阪神甲子園球場。完成は1924（大正13）年で、その年が十干十二支の先頭「甲子」だったことから、縁起が良いと命名されました。

2回目の「甲子」1984（昭和59）年の夏、甲子園に出場した境高校は法政一高と対戦。安部投手が9回を終えて無安打無得点という快投を演じましたが、延長10回裏に唯一の安打となるサヨナラ本塁打を浴びて惜敗。今も高校野球史に残る熱闘でした。

今年はどうでしょう。そして3回目の「甲子」2044年はどんな境港になっているのでしょうか。CSを通してみんながつながるまちになっていたら嬉しいです。